

親愛の気持ち

初等教育学科4年
柚木 里美



文大生の 故郷と都留

11

アパートの階段を下る時、目の端に、緑色の層と紫色の層が映ります。庭造りの上手な大家さんが植えてくれた、ラベンダーです。それを見る度に、少し傷みます。

私は、何年か前に、寂しさのあまり、母を都留へ呼びました。河口湖のラベンダーフェスティバルへ一緒に行きました。が、観光を楽しむとしていた母に、不機嫌な態度で接してしまいました。それでも母は、悲しそうに困った顔をするだけで、何も言いませんでした。母を居心地の悪いまま帰らせてしまった後、余計に寂しくなりました。

また、都留出身の友人とお互いの地元の話をする時、悪い点の方が話題の中心となっています。別に心から嫌なことでもないのに、変ですね。

例えば、彼女は、道路は狭すぎるし、昔のなごりで、近所付き合い合いも大変だ、と言います。しかしそれは、城が一気に攻められないように、広く一直線には作らなかったことや、戦国時代から続く地域もあるとのこと。だから、そのような歴史のしみこんだ土地柄を、うらやましいと思います。



潮来の川下り

私の育った茨城県潮来町は、水郷潮来と呼ばれています。道路も広く、歩道も農耕車が通れる幅の所もあります。標識に「高速道路ではありません」とある程です。また、視界も広く、父の働く会社の工場が、三十キロメートル以上離れていても、海のように波打つ水田の地平線の上に、見ることが

できます。もちろん、広大な利根川の様子も、夕暮れどきなど、心の静まりを感じさせてくれます。都留とは、正反対の景色ですが、両者とも、私にとっては価値のあるものです。

彼女にとっても、同じことなのでしょう。むしろ、いくら嫌だと言っても、自分の故郷であることに変わりはなく、都留に帰れば、地元の人間として話ができる、という安心感を、確かめているようにも思います。

そう考えた時、私の母へ対する態度も、甘えていたのだと気が付きました。どんな自分であつても、受け入れてくれるだろう、という安心感を得ていたのかもしれない。だから、ラベンダーを見ると、情景が浮かび、母親への親愛の気持ちと、はずかしさで、ドキッとするのです。

さて、あと半年もすれば、私も友人に都留のことを語ることと思います。その時は、きつと誇らしげな顔をしているでしょう。そして、あまりに熱く語ってしまったことに、はずかしさを感じながら、都留への親愛の気持ちを、確かめているはずで

ネイチャーセンター ガイド (7)

1階展示フロア
昆虫展「むし・あつい夏」

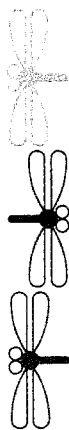
9月27日まで開催中!

学芸員といっしょに森へ出かけてみませんか? 目の前に広がる知られざる「むし」たちの世界へ探検のはじまりです。

フィールドでは…

来館者の方々にふれあいの里にある3つのサテライトを探検してもらい、その場で生まれた「そばくな疑問」を募集しています。

例えば、クモの足はなぜ8本なのかなど、普段なにげなく思っている疑問を学芸員と一緒に解きあかしましょう。



夏といえば夏ですけど、カラッと晴れた日が少ない夏でした。しかしながら、ふれあいの里には連日、たくさん子どもたちが訪れ、虫かごとアミを持ち、野山を元気にかけまわる姿をみせてくれました。

そこではふれあいの里で今まで観察することのできなかった「いきもの」をたくさんみつ付けてきてくれました。

(観察会)アカネズミって、 どんないきもの?

森にすんでいるノネズミをおもしろい箱を使って観察します。

夜の森はどんな世界なのだろうか? アカネズミって名前がついているけど本当に体の色は赤色なのかな?

期 日 9月26日(土)
時 間 午後5時~8時
場 所 都留いきものふれあいの里
ネイチャーセンター
定 員 15名
指導員 ネイチャーセンター学芸員
参加料 無料
持ち物 防寒具
申込先 ネイチャーセンター

☎(45)6222 (要予約)

